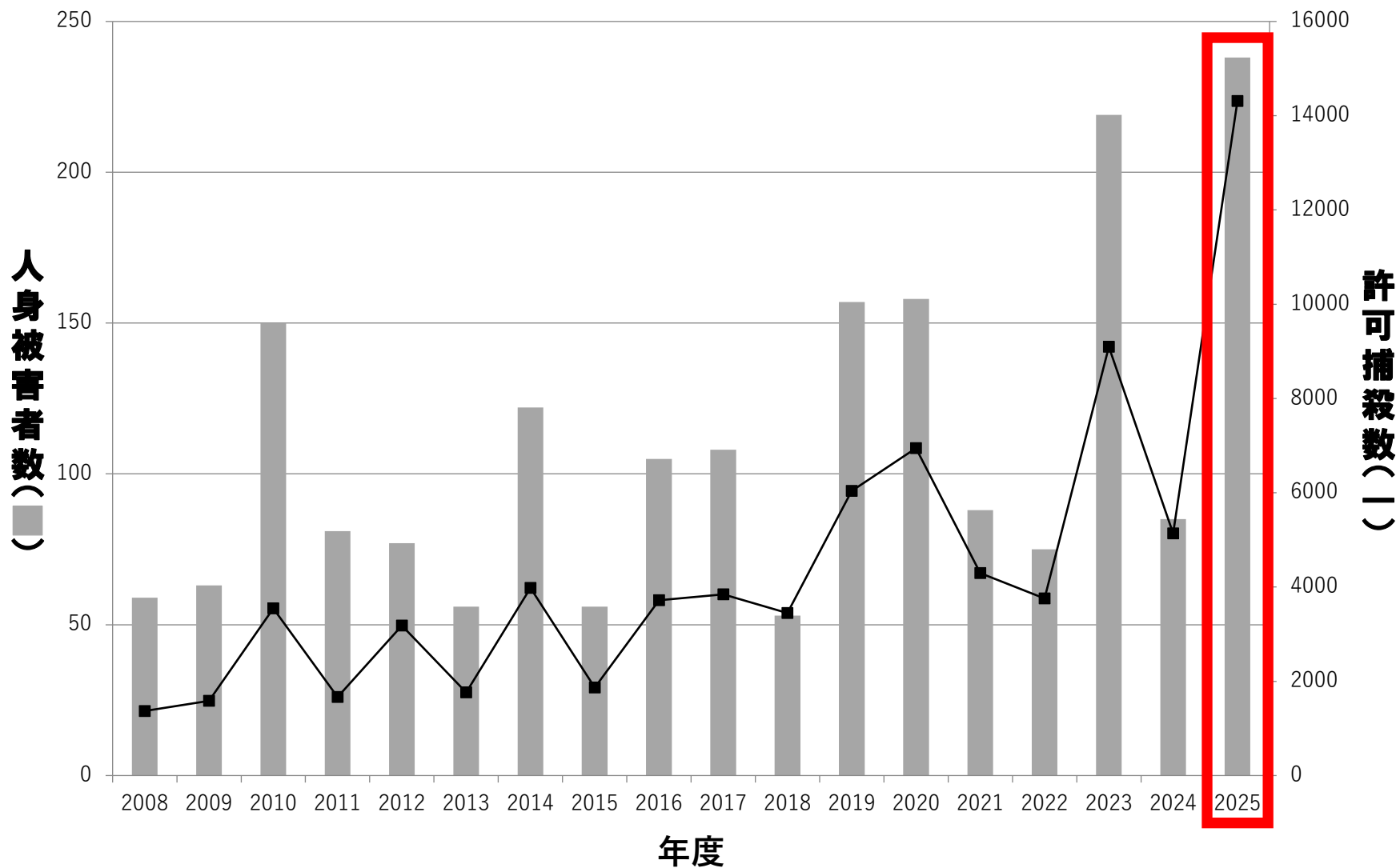




軽井沢町における クマの生息状況と対策について

令和8年4月28日 定例記者会見

全国のクマの出没や被害状況①

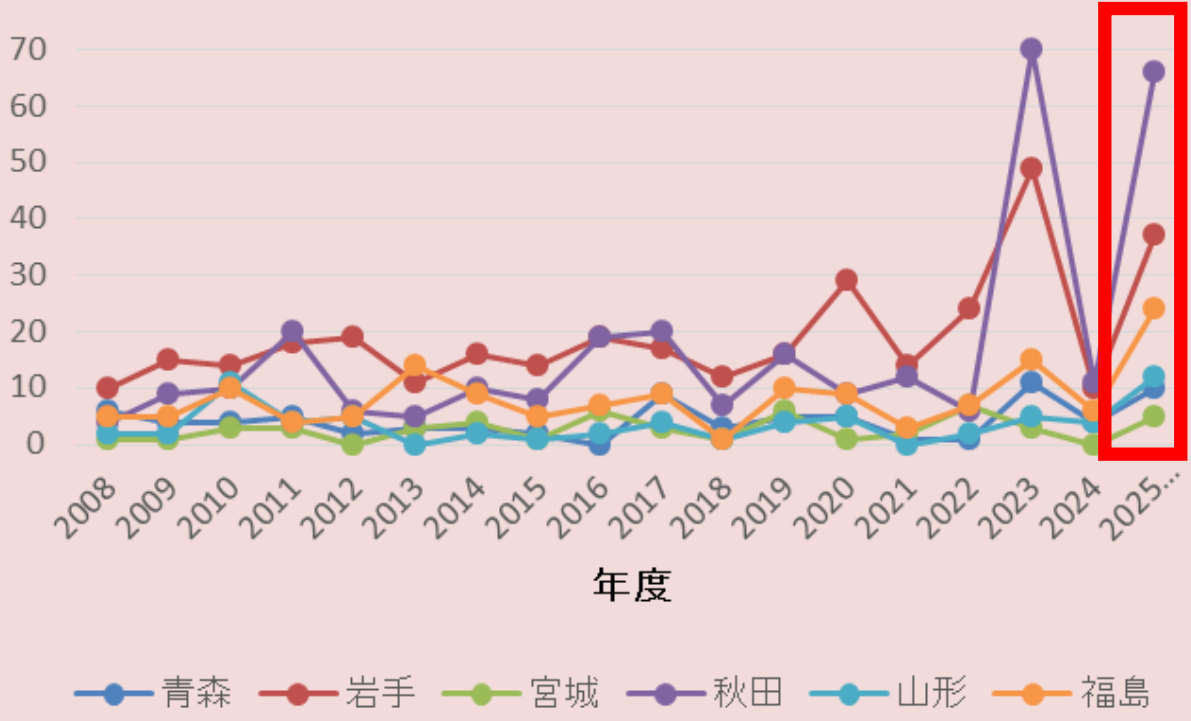


全国	2025年
人身被害者数	238人
許可捕殺数	14,311頭

ヒグマとツキノワグマによる
人身被害者数 (3月末現在)
および両種の許可捕殺数 (2月末現在)
環境省による統計資料から作成

全国のクマの出没や被害状況②

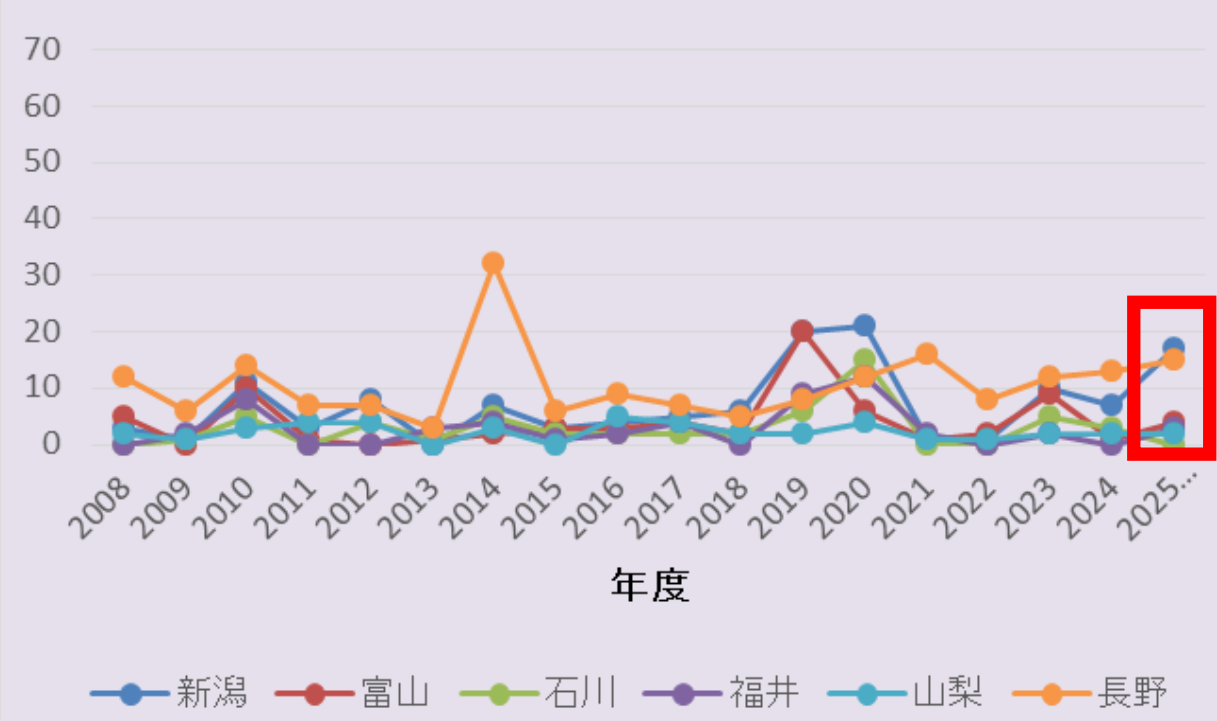
県別被害者数(東北地方)



40人

67人

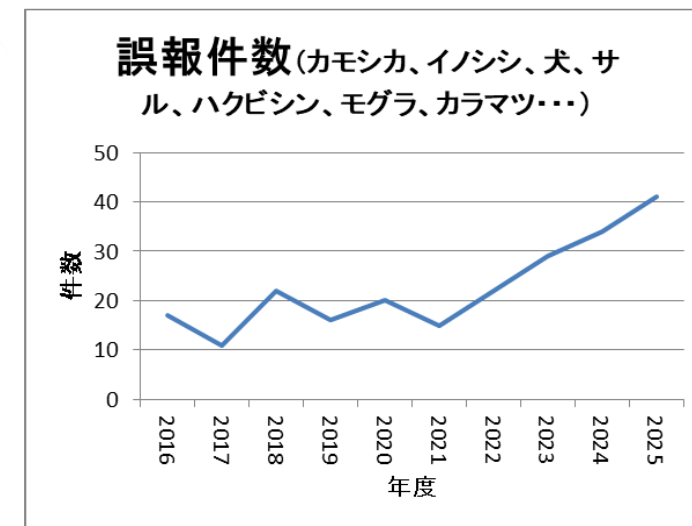
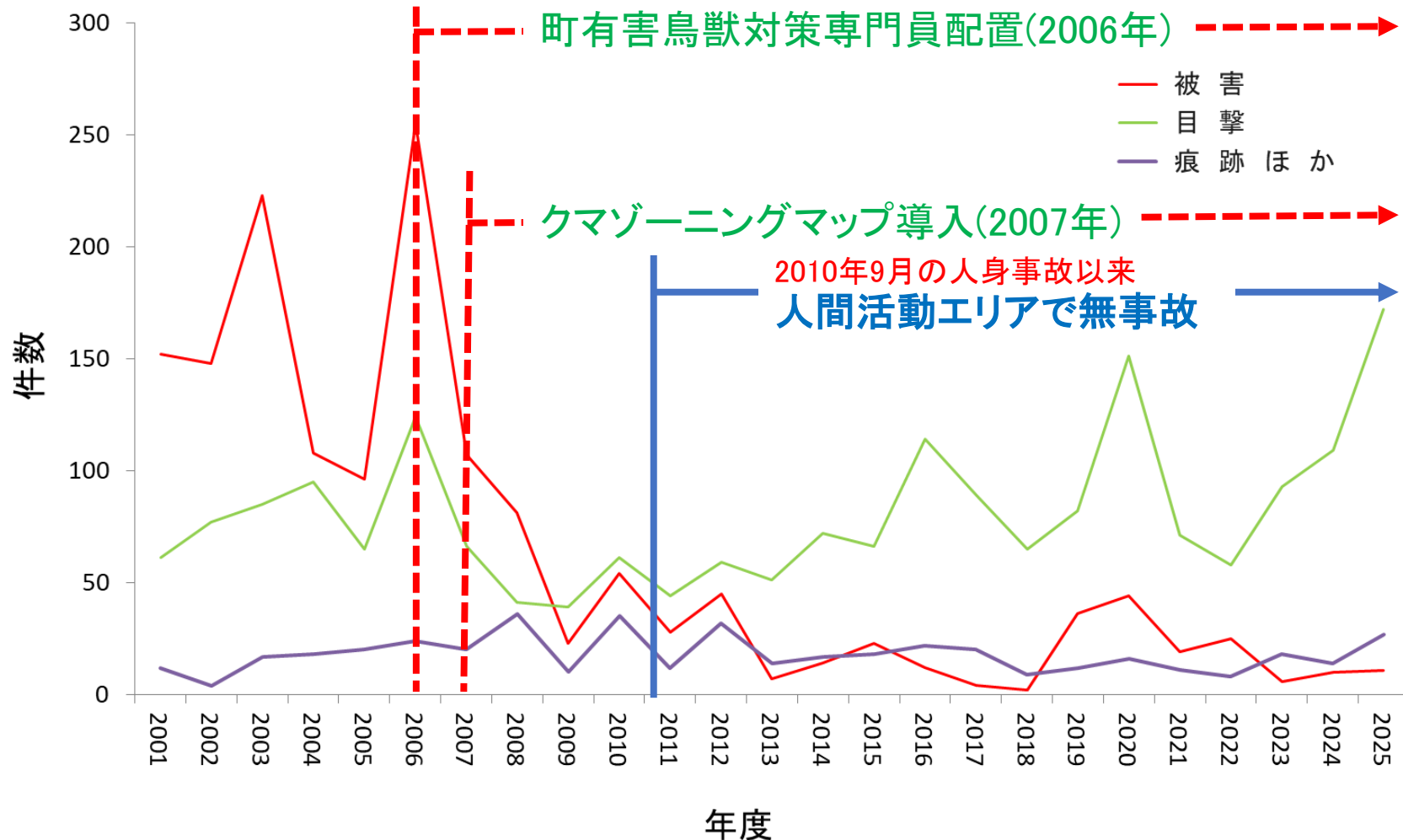
県別被害者数(甲信越地方)



16人

軽井沢町のクマの出没や被害状況

クマ個体管理(ピッキオ委託)開始(1998年)



軽井沢町	2025年
出没情報件数	208件
人身被害件数	2件

軽井沢町におけるクマの生息数(推定) (※1)

令和8年3月31日現在



地域	頭数
越後三国個体群 (※2)	約90頭
関東山地個体群 (※3)	約17頭
計	約107頭

※1 長野県による各管理ユニットの推定個体数にユニット内に占める軽井沢町の面積比率を乗じた推定値

※2 国道18号線より北側 (国指定鳥獣保護区)

※3 国道18号線より南側 (国指定鳥獣保護区外)

軽井沢町でのクマ対策の経緯

【背景】

- 1990年代後半、**三笠、鶴溜エリア**の公共もしくは別荘地のプレハブ型**ごみ集積所**がクマに荒らされる被害が発生。
徐々に**星野、千ヶ滝中区エリア**に被害が拡大。
- 1998年、**星野リゾートピツキオ**が、NPO法人信州ツキノワグマ研究会のサポートのもと、**独自でクマの調査研究を開始**。
- 2000年前半、**公共ごみ集積所、屋外放置の生ごみ、コンポスト、雑廃水槽、ドッグフード**など、被害が拡大。
- 旧軽井沢、中軽井沢、新軽井沢など、**住宅地や商業地エリアでも出沒、被害が発生**。

軽井沢町でのクマ対策の経緯

【要因】

- 軽井沢町、標高1000m前後の高標高地の山岳観光都市。
- クマ生息核心地（群馬県、浅間山）に囲まれている。
- ごみ等、餌付いたクマが複数確認。

⇒クマ被害 人由来の誘引物すべてに被害拡大

2000年秋、町のクマ対策の開始

- 2000年秋、軽井沢町が、ツキノワグマ、ニホンザルの調査委託を開始
- NPO法人ピッキオ:クマチーム確立
- クマ対策を本格的に開始

軽井沢町が考えるクマ対策のポイント

① 駆除だけしても、被害はなくなるしない

⇒ 加害固体の特定と駆除

② 餌付き個体を出さない

⇒ 出没頻発化、行動大胆化、被害拡大、事故を誘発

③ 出没、被害状況の解明、改善

⇒ なぜ出没するのか、何をどうすれば良いのか。生態調査の実施、

基礎データの収集、蓄積

④ 早期発見、早期対応、改善

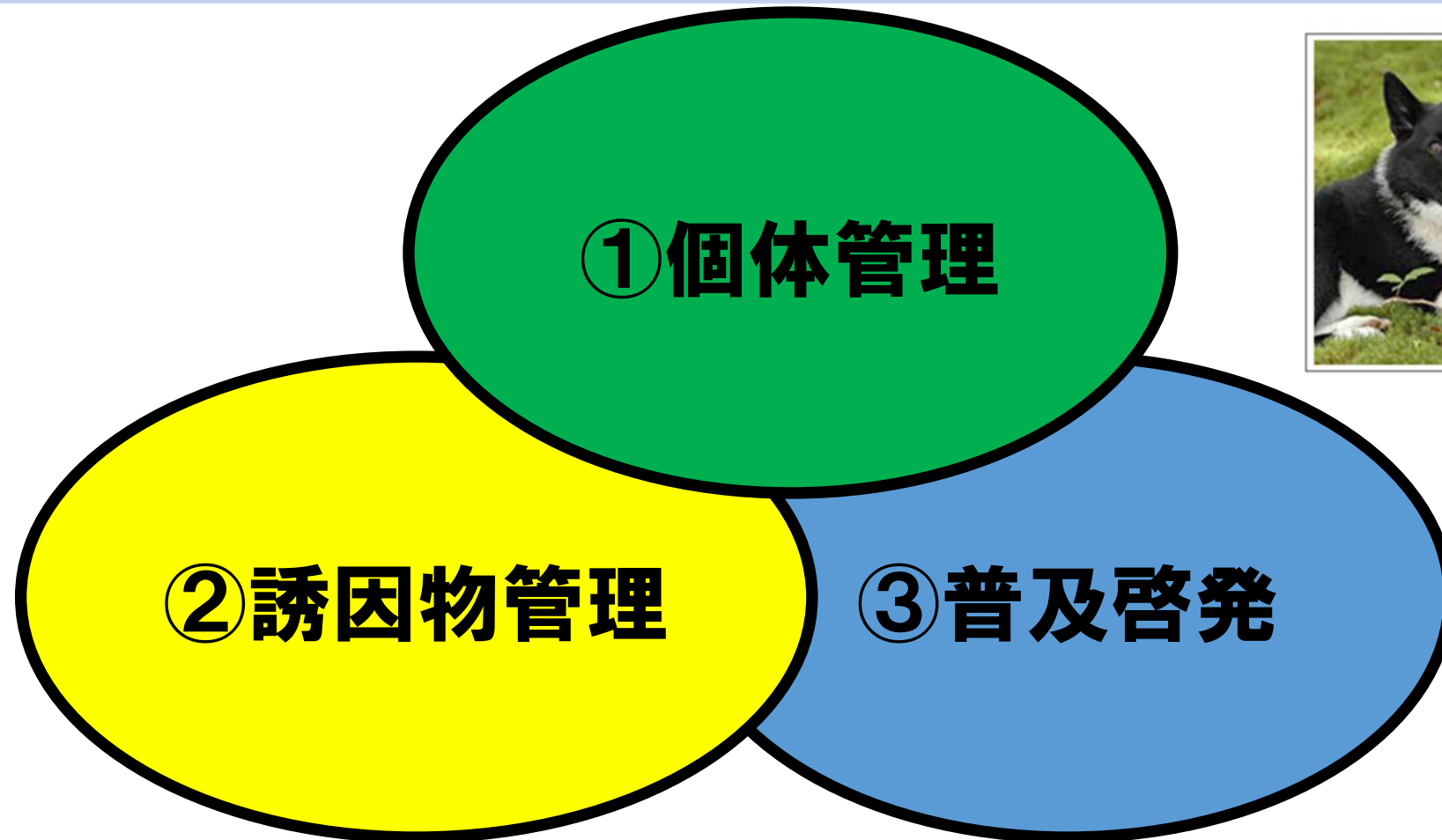
⇒ 原因究明、迅速に改善

⑤ 普及啓発の重視

⇒ クマをよく知る、備える。住民に伝達、対策への理解



軽井沢町クマ対策の三本柱



住民、来訪者などの安全、安心の確保、被害、事故など未然回避

軽井沢町のクマ対策の特徴 ① 個体管理

●ゾーニング管理の導入

⇒土地利用状況に応じた対応指針

●2004年ベアドッグの導入(活躍している北米以外で海外初導入)

⇒行動矯正の有無、駆除個体の見極め

●クマの行動監視(24時間)、駆除の見極め、行動矯正に向けた取り組み

⇒加害個体、執着個体の特定と排除



軽井沢町でのクマのゾーニング管理

クマ出没時の対応基準(概要)

エリア区分	人間活動エリア	緩衝エリア	クマ生息エリア
	商業地/宅地	別荘地	森林
方針	滞在防止	侵入防止	保護優先
危険 (レベルA)	駆除	駆除	駆除
嚴重注意 (レベルB)	駆除	防除・学習放獣・ 追払い・駆除	防除・追払い・ 駆除
注意 (レベルC)	駆除・防除	学習放獣・追払い 防除	防除
留意 (レベルD)	—	注意・学習放獣・ 追払い	注意
問題なし (レベルE)	—	—	注意

出没場所と軋轢レベルにより対応方針を判断
 どこに、どんなクマが出没したかで、出没個体への対応を判断
 ※駆除は個体識別できていることが前提

軽井沢町でのクマの捕獲状況

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
捕 獲	30	31	29	25	26
(学習放獣)	(29)	(29)	(28)	(24)	(25)
(駆 除)	(1)	(2)	(1)	(1)	(1)
自 然 死	1	3	1	1	0
合 計	31	34	30	26	26



軽井沢町でのクマの管理状況(発信器装着頭数)

令和8年3月31日現在

単位:頭

地域	発信器 装着頭数	オス	メス
越後三国個体群	23	11	12
関東山地個体群	13	3	10
計	36	14	22



軽井沢町のクマ対策の特徴 ②誘因物管理

- クマ対策ゴミ箱を開発、設置
- 住民協力による誘引物(屋外放置の生ごみ、コンポスト、雑廃水槽、ドッグフード等)管理の徹底
- その都度、対応し、捕獲、誘引物除去への協力要請
⇒餌付きの防止、問題個体を産まないこと、
クマが出没しにくい環境づくり(魅力をなくすこと)



軽井沢町のクマ対策の特徴 ③普及啓発

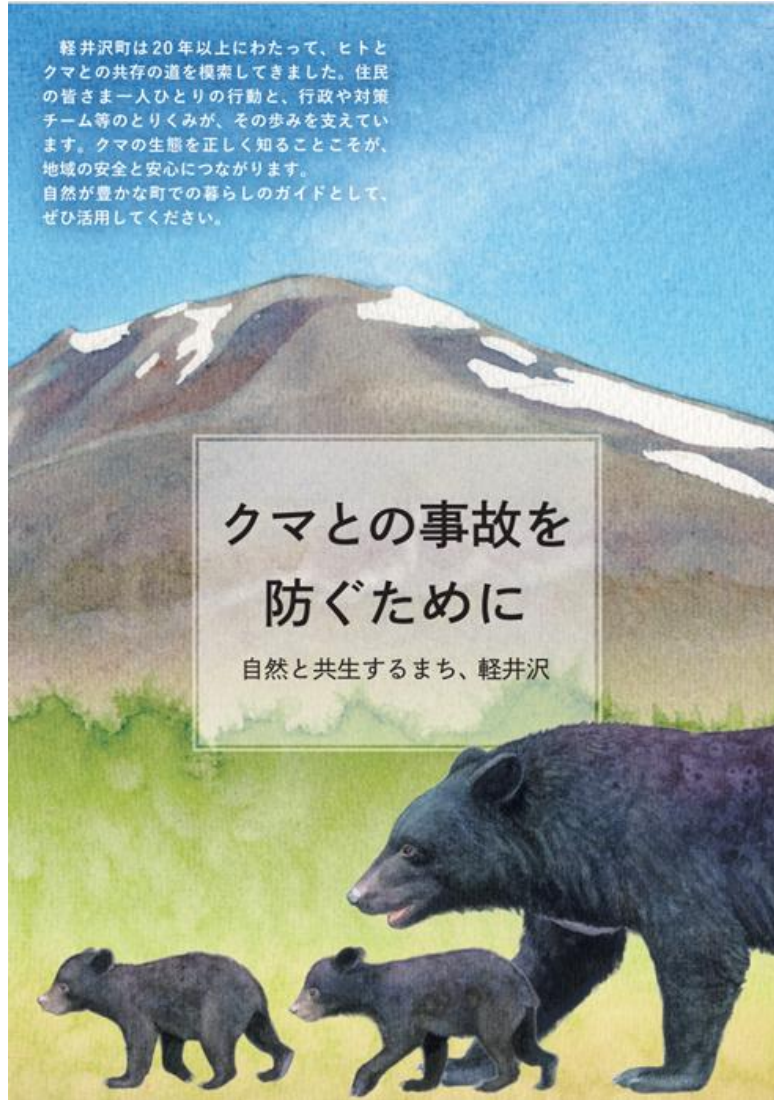
- すべての通報への対応(住民対応の重視)
- 常に住民へ正確な情報を伝達
- 子どもたちへの環境学習(クマの生態と対策)
- クマ対策の成果を毎年発信

⇒住民・観光客の理解、協力を仰ぐ

⇒出沒要因の解明と再発防止、予防の重要性



住民・観光客の理解・協力に向けた啓発



住民や観光客が理解でき、協力しやすいように、イラストを用いた『かるいざわ ツキノワグマ ゾーニングマップ』を作成



かるいざわ ツキノワグマ ゾーニングマップ

ヒトとクマとのすみ分けに向けて

各エリアの対応方針とクマの危険レベルに応じて適切な対策を実施

エリア区分	対策	対応	対応	対応
コアエリア
...

クマの生活

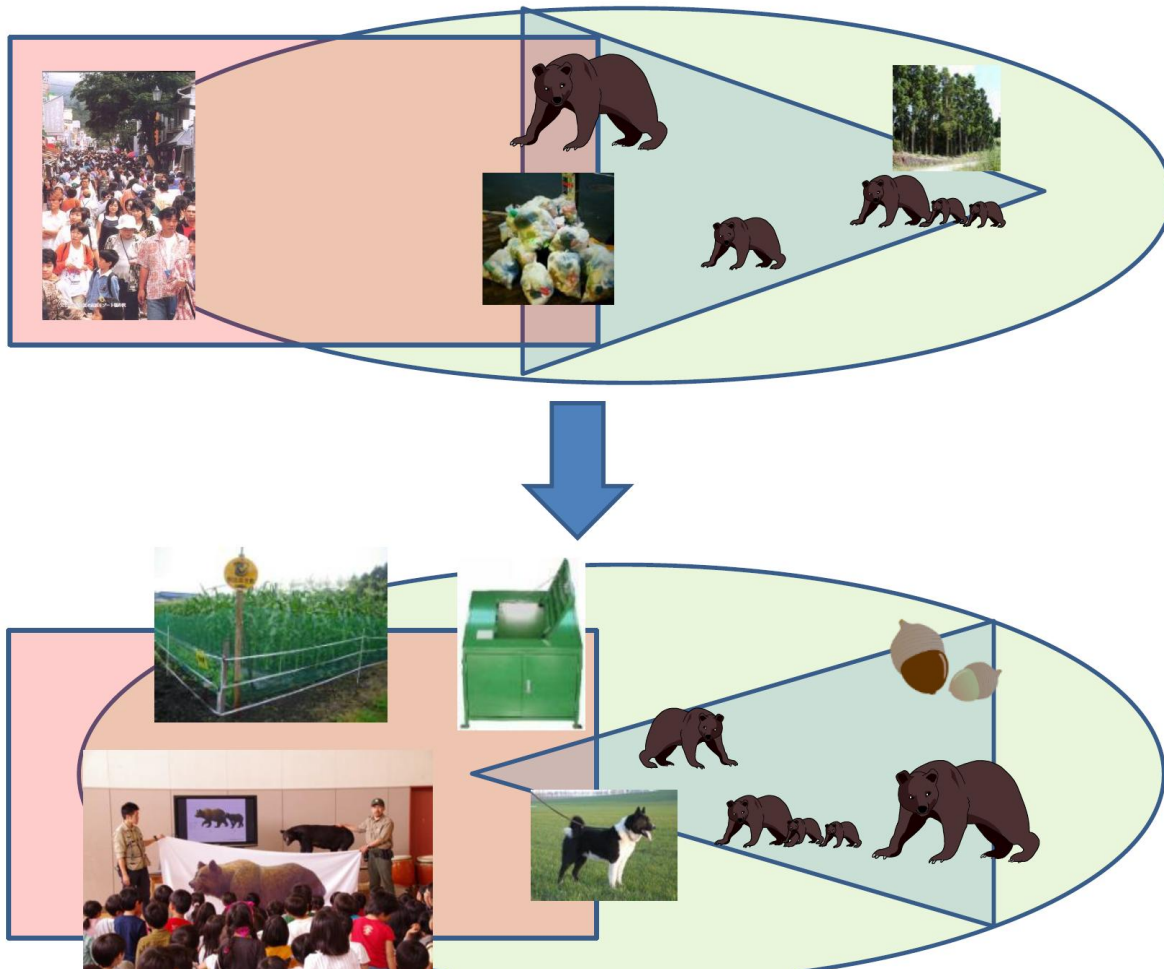
ツキノワグマの一年

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

16

軽井沢町のクマ対策の効果

2000年～ 軽井沢町ツキノワグマ対策事業



⇒2009年以降、ごみ被害など、人由来の人工物などへの被害激減

⇒2010年以降、居住エリア内での人身事故発生なし

軽井沢町のクマによる人身被害

- ・2025年5月3日 14:50頃 晴れ
- ・軽井沢町 三ツ石国有林
- ・単独 男性 30代 山菜採り中
- ・予防策なし



2000年以降、軽井沢町では山菜採りの方とクマの接触事故が4件発生
(2002年5月9日※、2016年5月3日※、2023年5月6日、2025年5月3日※)

※ 冬眠穴に接近

ツキノワグマ対策について

長野県「県民の命と暮らしを守るツキノワグマ対策」総合パッケージ 1.1

～ツキノワグマによる人身被害ゼロを目指して～

長野県
令和8年1月9日

「人身被害ゼロ」を目標に掲げ、全庁的な連携のもと、部局間で情報を共有し、現場と連携した迅速かつ的確な対応体制を構築することで、持続可能で安全・安心な地域社会の実現を目指します。
※赤字は1月補正項目

《基本方針》

クマ被害から、県民の命を守る

- ◆人とクマとの適切な共存
- ◆人の日常生活圏に侵入したクマの捕獲の徹底
- ◆人材の育成・確保

《対策の柱3》緊急対応体制の強化

14,484千円

(9月補正 23,289千円)

《対策の柱1》棲み分けの推進

- ゾーニング管理導入
全県の広域ゾーニング案
→未導入市町村に対し
- 侵入防止柵の整備
里地への侵入を防ぎ、農
止柵の整備を支援
- 緩衝帯の整備（農政
人の日常生活圏と接する
- 誘引物の適正な処理（農政部、林務部、環境部）
集落周辺での放任果樹等の誘引物の除去等管理の徹底

○捕獲上限の引き上げと捕獲の強化(林務部)
捕獲上限数を337頭⇒675頭に引き上げ
学習放獣の一時休止、錯誤捕獲発生時の緊急
捕獲の徹底



《対策の柱2》人の日常生活圏に侵入したクマの捕獲の強化

14,395千円

- 計画的な管理と継続的な調査・分析（林務部、環境部）
継続的なモニタリング調査による推定生息数の把握
生息状況調査の結果を踏まえた速やかな計画の見直し
- 捕獲上限の引き上げと捕獲の強化（林務部）
捕獲上限数を337頭 → 675頭に引き上げ
学習放獣の一時休止、錯誤捕獲発生時の緊急捕獲の徹底、資材購入支援
など市町村との連携により、人の日常生活圏に侵入したクマの捕獲を強化

《対策の柱5》情報発信・普及啓発と行政体制の強化

462千円

(11月補正 30,358千円)

- 目撃情報の迅速な情報発信・注意喚起（林務部）
スマホアプリ「けものおと2」による情報提供と注意喚起
- 正しい知識の普及（企画、県文、観光、環境、林務、建設、教育）
ターゲットを明確にした効果的な広報による、県民等の「正しくおそれ、正しく備える」意識を醸成
- 県組織の体制強化（全部局）
庁内横断的な意思決定の体制整備（対策本部の設置）

軽井沢町でのクマのゾーニング管理(限定※)

クマ出没時の対応基準(概要)

エリア区分	人間活動エリア	緩衝エリア	クマ生息エリア
	商業地/宅地	別荘地	森林
方針	滞在防止	侵入防止	保護優先
危険 (レベルA)	駆除	駆除	駆除
嚴重注意 (レベルB)	駆除	防除・学習放獣・ 追払い・駆除	防除・追払い・ 駆除
注意 (レベルC)	駆除・防除	学習放獣・追払い 防除	防除
留意 (レベルD)	—	注意・学習放獣・ 追払い	注意
問題なし (レベルE)	—	—	注意

●国が個体数管理の強化に転換、県も学習放獣の一時休止・錯誤捕獲発生時の緊急捕獲の徹底を発出

※近隣市町村のクマ被害への影響を考慮

⇒学習放獣一時休止期間中は、軽井沢町も「緩衝エリア」で捕獲されたクマは駆除

クマとの接触事故を防ぐために

1. 軽井沢さるクマ情報、メール配信サービスを利用する
2. 夕方から朝にかけてと、天候が悪い時は特に注意
3. 看板などを参考にして、クマがいる場所をできるだけ避ける
4. 林の中で穴や凹みに近づかない
5. クマが好む果実をつける樹には注意
6. クマを興奮させて引き付けることがあるため、犬のリードを離さない
7. クマ鈴やラジオなどの鳴り物を携帯し、ヤブ周辺や見通しの悪いところでは、積極的に自分の存在を知らせる

